

1 単元名 「1000までの数」

2 単元について

本単元において身につけるべき内容は、十進位取り記数法による数の読み方、書き表し方、大小、系列である。1学年において10までの数、20までの数、100までの数について学習してきた。2学年においては、1000までの数、10000までの数について学習する。数の拡張は子どもにとって大変抵抗があるので段階をおって拡張している。特に十進位取り記数法については、0から9までの数を、書き表す位置によってすべての数を表すことができるという良さについて理解させたい。そのなかでも、0の存在は大変大きい。0の意味は2つある。ものの始まりと、何もない(無)という意味である。記数法における0のもつ大きな意味は後者の方である。0という数がないとすべての数を書き表すことができない。例えば、三百四の、三百は百の位に3と書き表し、四は一の位に4と書き表す。ところがそのままでは、「34」となり「34」と間違えてしまう。そこで後者の意味である十の位が「何もない」ということで「0」を用い、「304」と書き表すことができるのである。

数の拡張に伴い、具体的なイメージを持たせるために具体物の操作は必要不可欠になる。数の表記と具体物を対応させて指導することにより、大きな数に対しての量感が豊かになると考える。

3 単元の目標(詳細は、評価規準参照)

- (1) 1000までの数の数え方や表し方について関心をもち、十進位取り記数法のよさに気付くとともに、10や100を単位として、進んで数えたり表したり計算しようとする。(算数への関心・意欲・態度)
- (2) 1000までの数の大きさを10や100などを単位としてそのいくつかと見たり、大きな数の加減を10を単位にして計算したりして、数の多様なとらえ方を考える。(数学的な考え方)
- (3) 十進位取りのしくみをもとにして、1000までの数を、数えたり書き表したり、大きさを比べたりすることができる。また、10を単位として簡単なたし算・ひき算をすることができる。(数量や図形についての表現・処理)
- (4) 1000までの数について、十進位取り記数法をもとにして、数の読み方や書き表し方、数の構成や系列、順序、大小などを理解する。(数量や図形についての知識・理解)

4 単元計画(詳細は、評価規準参照)

1	計算棒の数え方を工夫し、100をこえる数のよみ方を知って、100をこえる数の表し方やしくみに関心をもつ。
2	3位数について、十進位取り記数法に従って数字で表したり構成を説明したりできる。
3	空位のある3位数について、数字で表したり構成を説明したりできる。(本時)
4	10や100を単位にして、そのいくつかになるかを10円玉、100円玉を使った算数的活動を通して考え、数の相対的な大きさをとらえることができる。
5	十進位取り記数法のしくみをもとにして、3位数の大小を比較することができる。
6	1000という数を知り、線で囲むことによる算数的活動を通し1000という数の構成や数の系列をとらえることができる。
7	数直線の目盛りの大きさに着目し、1000までの数の系列や順序を理解することができる。
8	10を単位とする簡単なたし算・ひき算ができる。

5 本時の学習指導

(1) 本時の目標

空位のある3桁の数を表現することができる。(表)

(2) 学習指導過程

学習活動・意識の流れ	支援と留意点
<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <p>3 教具を使って空位のある数を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100の束が4つ，1の束が6つの数について考える。 ・"406"と"4 6"の違いについて考える。 S：十の位は何もないから書かなくていいよ。 S：46と間違えないかな。 ・教具(位取りボックス：動画コンテンツ参照)を使って307と250を作る。 ・桁という言葉を知る。 <p>4 練習問題をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習が理解できているかどうかを確認するために，フラッシュカードや教具を使う。 ・「0」を使った3位数があることをフラッシュカードで確認する。 ・3，4人に1つの位取りボックスを用意し，空位のない3位数で全員が何度もできるようにじっくりと時間をとる。 ・位の数字はその位に束をいくつ入れたかを考えるように助言する。 ・全員が納得するまで話し合いに十分な時間を取る ・何も入っていない位の数字は0を用いることを"4 6"との違いを例に出し，理解できるようにする。 評 【表】 空位のある三位数について数字で表すことができる。 B：空位のある具体物の数を「0」を適切に使って正しく表すことができる。 A：空位を表す「0」の意味を理解し，空位のない場合と同じように数のしくみを説明することができる。 ・自分で位取りボックスを使って307や250を作ることができる児童にはどんどん自分たちで問題を作らせ，習熟を深める。 ・まだ理解が不十分な子どもには個別に助言したり，何度も教具を使って操作できる時間をもつ。 ・3位数だけでなく，既習の2位数，1位数についてもおさえる。 ・数を見て位の数が何を表しているのかを言いながら問題を解くように指示する。 ・早く終わった児童のためにワークシートを用意しておく。 ・まとめはノットに書くようにする。

